

パニウム - 第十七号

事と幻：ダニエルの二系統の預言とヨハネ黙示録の封印解除

Jeff Pippenger

2026-02-22

2020年7月18日、十四万四千人の運動の最初の失望が到来した。それは、ダニエル書十一章四十節の「隠された歴史」の中で起こった。その失望は、その「隠された歴史」がかなり進んだ段階で生じた。すなわち、その歴史は1989年のソビエト連邦の崩壊から始まっている。四十一節はアメリカ合衆国における日曜法を表し、これは同章十六節にも表されている。2023年における、四十節の「隠された歴史」を構成する諸真理の「封印の解除」は、ダニエル書十二章において提示されている。十章から十二章までは同一の幻であり、その幻は、ダニエルが、預言の内的および外的メッセージの双方を理解する「賢い者」を表していることを示すことから始まり、そこではそれが「the thing」と「the vision」として表されている。

ペルシアの王クロスの第三年に、ダニエル、すなわち名をベルテシャザルと呼ばれた者に、一つの事が示された。その事は真実であったが、その定められた期間は長かった。彼はその事を理解し、幻を悟った。ダニエル書 10:1.

二つの異象

“thing” と “vision” は、預言における内的および外的な幻視を表しており、ダニエルはその双方を解する民を代表している。というのも、“thing” と “vision” の双方が第十章においてダニエルに “revealed” されたからである。同章において、第二十二日には、聖所におけるキリストの幻視がダニエルに “revealed” された。なお、“thing” と訳されているヘブライ語は、第九章では “matter” と訳されており、そこでも “vision” と関連づけて提示されている。

あなたの願い求めの初めに、命令が下り、私はそれを知らせに来た。あなたは大いに愛されているからだ。それゆえ、この事を悟り、この幻を思い巡らせよ。ダニエル書 9:23.

十章における「thing」という語は、九章二十三節で「matter」と訳されている語と同一である。ダニエルの最終の幻である十章から十二章において、十一章の「thing」や十章の「matter」は、いずれも「vision」と結び付けられている。「vision」はヘブライ語の「mareh」であり、「出現」を意味する。ダニエルはその書において二つの「visions」を指し示しているが、その二つの「visions」のうちの一つは、女性形で表され、さらに再び男性形で表されている。十章一節のダニエルは、出現の「vision」をも、また「matter」すなわち「thing」をも理解する者たちを代表している。八章においてダニエルは、互いに結び付けられた二つの「visions」を特定している。英語では、その章に「vision」という語が八回用いられており、「vision」と訳されているヘブライ語の一つは「mareh」、もう一つは「chazon」である。mareh は「出現」を意味し、chazon は「夢、啓示、または神託」を意味する。八章の文脈は、「mareh」が「vision」と訳されるとき、それ

が「キリストの出現」を表していることを確立している。

その一例として、ダニエル書8章14節における「マレー」、すなわち「出現の幻」が挙げられる。これは、マラキ書3章の「契約の使者」の成就として、1844年10月22日にキリストが神殿に突如として顕現することを意味しており、ホワイト姉妹はそれが1844年10月22日に成就したと述べている。ホワイト姉妹が、黙示録10章で降りて来て一方の足を地に、他方の足を海に置いた御使いは「イエス・キリストその人にほかならない」と特定したとき、彼女はキリストが顕現する預言上の道標を指し示していたのである。これは、キリストの多くの顕現の一つである。ユダの手紙によれば、キリストはモーセの復活の際にも現れた。そこでは大天使ミカエルとして現れたが、それでもなお預言的な顕現であった。八章のマレーの幻は、その語義に即して「出現」とも訳される。

さて、わたし、すなわちこのわたしダニエルが、幻を見てその意味を求めていたとき、見よ、人の姿のような者がわたしの前に立っていた。ダニエル書8章15節

ここでの文脈は、「人の外観」を有していたのが御使いガブリエルであったことを示している。そして「外観」という語は、キリストの「マレー」の幻における外観を指す。というのも、キリストは大天使ミカエルによっても、また黙示録第十章の強き御使いによっても表象されるのと同様に、預言上、天使の象徴、さらには人間の象徴とさえ相互に置換し得るからである。該当の節のガブリエルであれ、黙示録第十章におけるキリストであれ、あるいは大天使ミカエルとしてであれ、彼らはそれぞれ一つの使信を表している。このゆえにホワイト夫人は、黙示録の御使いたちを、彼らが表す使信と、その使信を宣べ伝える人々と結びつけて論じている。この真理はきわめて重要であって、黙示録第一章の冒頭三節、すなわち「時が近いからである」として恩恵期間が閉じる直前にイエス・キリストの黙示の封印が解かれることを告知する三節の中で、神から人への伝達過程が、御父から御子へ、御子から御使いへ、御使いから人へ、そしてその人から諸教会へと使信が渡されて行くものとして、明確に特定されている。伝達過程の各段階は聖く神聖であり、その聖別された聖さは、キリストがご自身として、あるいは御使い・人・使信を通して顕れる預言的道標において表象されている。彼が道標においてご自身を直接に顕されるととき、それが「マレー」の「外観の幻」である。

イエス・キリストの黙示。これは、神が彼に与え、そのしもべたちに、間もなく必ず起こるべき事柄を示すためであった。彼は御使いを介してそれを遣わし、しるしをもってそのしもべヨハネに示された。ヨハネは、神の御言葉とイエス・キリストの証しと、彼が見たすべての事について証言した。この預言の言葉を朗読する者、またそれを聞き、そこに書かれている事々を守る者は幸いである。時が近いからである。... また彼は私に言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近いからである。不義な者はなおも不義であれ。汚れた者はなおも汚れたままであれ。義なる者はなおも義であれ。聖なる者はなおも聖であれ。」ヨハネの黙示録 1:1-3;22:10, 11

第八章において、「chazon」は「vision」と訳されるもう一つのヘブライ語である。「appearance」との関係においては、「marah」のvisionは道標を指し示し、「chazon」のvisionは預言的期間を指し示している。第八章で「vision」と訳される二つの語には神的な対称性がある。というのも、ヘブライ語の「mareh」という語は、その女性形「marah」としてもダニエルによって用いられているからである。「chazon」については、ダニエルは

それを二通りに表現しているが、男性形と女性形の対比によってではなく、同一の意味を指し示す二つの語によってであり、しかもそうすることによって、それらは指数関数的に拡張する。

「chazon」は「幻」、すなわち神託または預言を意味し、英語で「matter」あるいは「thing」と訳される語は、ヘブライ語の「dabar」であり、それは「言葉」を意味する。ダニエルにおいて「chazon」としての幻が「dabar」という語によっても表されていると理解されるとき、両者は一体となって、神の御言葉の預言的メッセージを表すことになる。ダニエルは常に「dabar」または「chazon」を「mareh」と対置する。預言的次元において、「dabar」と「chazon」によって表象される「神の御言葉の預言的メッセージ」が、キリストの御姿に関わる「marah」の幻と結び合わされるとき、そこに神の御言葉の預言的歴史の聖なる道標が与えられる。さらに、ダニエルにおける幻の意味の系列に、「mareh」の女性形である「marah」を加えるなら、信仰による義認を鏡を通して見る幻が得られる。

彼の書の最後の三章に描かれているダニエルの最後の幻において、ダニエルは、「神の御言葉」の「預言的幻」を理解し、十四万四千人の改革運動を構成する聖なる道標の神聖さをも理解する、終わりの日の民を代表している。というのは、彼らは、その聖なる預言の御言葉において小羊が行かれるところならどこへでも従う者たちだからである。彼らが小羊に従うとき、小羊は彼らを、ダニエル書10章7節にある鏡の幻へと導く。そこにおいて彼らは、誤謬の陰に逃れて身を隠し、そこで永遠に葬られるか、あるいは塵の中にへりくだらされ、義とされ、終わりの日々の預言的メッセージを告げる権能を賦与されるか、いずれかである。

ガブリエルはダニエルに対し、「事柄」と「幻」の双方を「理解せよ」と命じる。「理解する」と訳されるヘブライ語は「心の内で区別を立てること」を意味する。読者であるあなたと私を代表するダニエルは、「事柄」と「幻」との相違と区別を理解するよう命じられた。「chazon」の幻は預言史の外的な筋道を表し、「mareh」の幻はキリストの顕現を表す。「事柄」および「事」はヘブライ語の「dabar」であり、それは「言葉」を意味する。イエスは「dabar」である。というのも、イエスは御言葉そのものだからである。「事」と「事柄」はいずれも「dabar」であって、顕現の幻と結びつけて提示されている。

事柄と事物を意味するdabarは、第八章におけるchazonの幻でもあり、それは預言的歴史の幻を表している。これらの表象(chazon、dabar、事柄、事物)はいずれも、預言の外的系列を指し示している。一方、marehとその女性形であるmarahは、預言の内的系列を表す。ダニエル書十章一節において表象されている終わりの時代の神の民は、預言的歴史の内的系列と外的系列の双方を理解している。黙示録においては、内的系列は七つの教会によって表され、外的系列は七つの封印によって表されている。

ダニエルは二十一日間の断食の後にキリストの幻を見たとき、marehの幻の女性形を見た。marehは「姿」を意味し、ダニエルがキリストを見たとき、彼は「marah」の幻を見た。また、marehが「姿」を意味するとはいえ、同一の語の女性形は「鏡」を意味する。ホワイト夫人は、ダニエルが見た幻はヨハネが見た幻であり、またヨハネはキリストが天の聖所におられたときにその幻を見たと言っている。

「ガブリエルの来訪の時、預言者ダニエルはそれ以上の教えを受けることができなかった。しかしそれから数年後、まだ十分に説明されていない事柄についてさらに知りたいと望み、彼は再び神からの光と知恵を求めることに心を定めた。『その日々、私ダニエルはまる三週間、喪に服していた。私は美味しいパンを食べず、肉もぶどう酒も口にせず、また全く身に油を塗ることもしなかった……。そのとき私は目を上げて見ると、見よ、亜麻布の衣をまとい、腰にウパズの精金の帯を締めたある人がいた。その体はまた緑柱石のようで、その顔は稲妻のような有様、その目は火のともしびのようで、その腕とその足は磨かれた青銅のような色、その言葉の声は群衆の声のようであった。』」

まさに神の御子ご自身がダニエルに現れた。この描写は、キリストがパトモス島で彼に現れたときにヨハネが記したものと似ている。ここで私たちの主は、もう一人の天の使いとともに来て、終わりの時代に何が起こるかをダニエルに教える。この知識はダニエルに与えられ、世の終わりが臨んでいる私たちのために、靈感によって記録された。

世の贖い主によって啓示された大いなる真理は、隠された宝を求めるかのように真理を探し求める者のためのものである。ダニエルは老齢であった。彼は異教の宮廷の華やぎのただ中で生涯を送り、その思いは大帝国の政務に煩わされていた。それにもかかわらず、彼はこれらすべてから身を退け、神の御前で己が魂を悩まし、いと高き方の御旨を知る知識を求めた。そして彼の嘆願に応じて、天の宮廷からの光が、終わりの日に生きる者たちのために伝えられた。そうであるなら、天から私たちにもたらされた真理を理解するために神が私たちの悟りを開いてくださるよう、私たちはいかほどの熱誠をもって神を求めるべきであろうか。Review and Herald, 1881年2月8日。

十四万四千人

ダニエルは「事柄」と「幻」を理解し、彼はダニエルとして、またベルテシャツアルとしても呼ばれている。預言における名の変更は契約関係を表すゆえに、ダニエルは、神殿におけるキリストの幻によって試される、十四万四千人なる最後の契約の民を表している。その試しは、礼拝者を二つの階級に分かつ。

ただ私ダニエルだけがその幻を見た。私と共にいた人々はその幻を見なかったが、彼らに大いなる戦慄が臨み、彼らは逃げ去って身を隠した。ダニエル書 10:7。

ダニエルは、神の終末の民に関わる「第二」および「神殿」の試練を、直接に指し示している。これは、天の聖所におけるキリストを見ることを前提とする試練である。七節の幻は、mareh の幻の女性形であり、marah の幻として表されている。もし、ダニエルの応答に示されているように、神殿におけるキリストの幻に応答するなら、預言的な「事柄」と預言的な「幻」が、あなたに「啓示」されるであろう。

もし、まさにそのキリストの神殿の幻に対して、逃げて身を隠すという態度で応じるなら、あなたは永遠の闇に入る。永遠の福音の三段階における第二の試しである神殿の試しに先立って、第一にして基礎となる試しがある。その基礎に関する試しの問いは、ダニエル書十一章十四節において表象されており、そこでは、ローマが「幻」を確立する「あなたの民の略奪者たち」として表されている。

時は近い

2020年7月18日の失望から三日半後、2023年12月31日に、イエス・キリストの啓示の封印が解かれ始めた. というのも、「時は近かった」からである.

この預言のことばを読む者と、これを聞く者たちと、その中に書かれている事柄を守る者は、幸いである. 時は近いからである.... また、彼は私に言った. 「この書の預言のことばを封じてはならない. 時は近いからである.」ヨハネの黙示録
1章3節;22章10節.

イエス・キリストの黙示の封印が解かれることを画する『時』は黙示録の冒頭で言及され、書の結びでは、同一の宣言がアルファの言明にオメガの言明を付け加える.

イエス・キリストの黙示は、恩恵期間の終結直前にその封印が解かれる. 二十一日にわたる断食ののち、第二十二日目に、「事」、すなわち「事柄」、すなわちダバー、すなわち「ことば」、すなわち外的預言史のハズンの幻が、ダニエルが至聖所における天の大祭司の鏡のようなマラーの幻を見ていたとき、彼に啓示された.

ダニエルは、鏡の幻視の経験を有し、またキリストの預言的顕現と、ハズンの幻視によって表象される外的歴史とをも理解する者たちを代表している. マラーの幻視は、キリストを預言的な道標として表し、同一語の女性形は、ダニエル、ヨハネ、イザヤ、ホワイト姉妹および他の預言者において示されているように、神の栄光を仰ぎ見ることによって生み出される経験を表している.

この段階において、chazon

の外的幻視は基礎的試験を表し、預言的諸事件の系列におけるキリストの顕現の mareh の幻視は神殿の試験である. あなた自身の至聖所のうちなる至聖所において、キリストは顕現しているか. そこは神性が人性に結合される場所である. これは、リトマス試験において猶予が閉ざされる前に、通過しなければならない試験である. 品性を現すリトマス試験は、marah の鏡の幻視である.

2023年12月31日、「あなたの民の略奪者ら」という十四節の語句をめぐって、基礎の外的試験が開始され、2025年5月8日に現教皇が就任したとき、十四節の「幻視」が確立された. 基礎の試験は神殿の試験へと移行した. 2025年5月9日以降、神殿の試験が進行中である. 2023年12月31日における二人の証人の復活は、『黙示録』十一章十一節において表象されており、その日に始まった復活は、2014年に開始され2022年に激化したウクライナ戦争の期間内に生じた. 預言における外的線と内的線は、その歴史において合流した. 2023年12月31日には、基礎を据える業が進行しており、この業は、1798年から1840年に至る歴史、また1840年から1844年に至る歴史、さらに1844年4月19日から同年10月22日に至る歴史によって型示されていた.

ダニエル書十一章十一節は、預言の外的系列として歴史に現れ、黙示録十一章の内的系列をなすまさにその歴史と結び付いた. 2014年には、紀元前217年のラフィアの戦いによって型示されているとおり、ウクライナ戦争が始まった. 2015年には、ダニエル書十一章二節の「第四の、はるかに富める王」が立ち上がり、大統領職に立候補する意向を表明した. その発表は、「ギリシアの国」として表象される、竜的心性を有するグローバリス

トたちを憤激させた。

ヨハネの黙示録11章11節は、二人の証人が復活した時点として2023年12月31日を特定した。これにより、2020年7月18日から2023年12月31日に至る期間は、預言的な「荒野」であると理解された。「荒野」の期間の終わりにさしかかった2023年7月に、叫ぶ声が起り、そして、2020年7月18日にあったナッシュビルに関する成就しなかった予言からちょうど千二百六十日後に、部族のユダの獅子は御自身の預言の御言葉の封印を解き始めた。神の預言の御言葉の封印が解かれるときは常に、ダニエル書12章に示されているとおり、三段階の試しの過程がもたらされる。

多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者はいない。だが、知恵ある者は悟る。ダニエル書 12:10

ヨハネの黙示録第十九章において、花嫁は自ら備えを整え、その後、白い衣を与えられる。白い衣は、花嫁の備えが整っていることを表し、その出来事は、天の窓が開かれる黙示録第十九章において起こる。キリストの義の衣によって花嫁が白くされる以前に、彼女はまず清められる。

2023年12月31日、土台の試練が始まり、清くあろうとする者たちを清め始めた。その清めは、知識が増し加わることによって成就する。なぜなら、そのときユダ族の獅子が、ご自身に関する最終的な啓示の封印を解き始められたからである。その啓示には、据えることのできるただ一つの土台はご自身である、ということが含まれている。ローマが「あなたの民を奪う者たち」であることを指し示す根本真理を拒むことは、据えることのできるただ一つの土台を拒むことにほかならない。

2023年12月31日に、直ちに二つの階級の分離をもたらす試練の過程が始まった。ユダ族の獅子は今や封印を解き、第十四節の史的成就が2025年5月8日であったことを明らかに示され、そうすることによって、預言の外的な幻視を確立する象徴としてローマを特定したミラーの見解を支持された。トランプが2024年に復帰したとき、彼はダニエル書十一章十三節を成就し、次の節では、教皇レオの選出によって2025年を標する。トランプと彼に対応する反キリストは、ともに2025年に就任した。

本運動において私たちが特定する諸時点は、本質的には聖別された事後的省察にほかならない。私たちは「終わりの時」を1989年と特定し、次いでメッセージの公式化を1996年とした。9/11において、その公式化されたメッセージは力を受けた。2012年に行われ、2013年1月に終結したハバククの板の提示において、礎が据えられた。

2020年7月18日に第一の失望が到来し、次いで2023年7月に荒れ野で叫ぶ者の声が起り始め、2023年12月31日にはイエス・キリストの黙示の封印が解かれ始め、第一の外的かつ基礎的な試練が始まった。

2025年5月8日、神殿における第二の内的試験が開始された。第三のリトマス試験が目前にある。そこにおいて、魂が、第一の外的試験によって表されるメッセージの油と、第二の内的試験に付随する油とを有しているか否かが頭わにされるであろう。この一連の試験は、外的、次いで内的、さらに経験という順序を表している。

内的な預言の系列は、私が先ほど挙げた道標から成り立っている。それらの各道標は、ミラー派の歴史における同一の道標と一致している。時の終わりとしての1798年は、同じく時の終わりである1989年に対応する。そこでユダ族の獅子が御言葉の封印を解かれた。彼は御言葉ご自身であるからである。アドベント主義が、ベテルの偽りの預言者のもとに戻って食事をすることにより、ヤロブアムの根本的叛逆における不従順の預言者の役割を果たしたとき、彼らはウィリアム・ミラーによる七つの時の同定に対して用いられた墮落したプロテスタンティズムの論拠へと回帰した。このため、彼らは、第一および第二の天使のアルファ運動にとって1863年が最後の道標である理由を、十分に、あるいはまったく理解していない。

それゆえ、それが126年であり、これは1,260の象徴であって、1863年から1989年の「終わりの時」に至る歴史にわたる「荒野」を象徴しているという事実は、彼らにとって何の意味も持たない。四十年の終わりに、ヨシュアはその運動を約束の地へ導いた。1989年に、主はご自身のオメガの運動を、1863年から1989年に至る「荒野」から導き出す御業を始められた。これは、538年から1798年に至る「荒野」からアルファの運動を導き出されたのと同様である。

1989年、ダニエル書の最後の三章を表すヒデケル川の異象の封印が解かれた。これは、ダニエル書第7章、第8章および第9章を表すウライ川の異象の封印が1798年に解かれたのと同様である。欽定訳聖書の刊行から二百二十年後、ウィリアム・ミラーはウライの異象に基づく自らのメッセージを初めて公刊し、こうして1831年にそのメッセージは正式に定式化された。同様に、ヒデケルのメッセージも、麗しの地たるアメリカ合衆国の誕生の年である1776年から二百二十年後の1996年に、初めて公刊された。

欽定訳聖書から二百二十年を経てなされたミラーによる使信の定式化は、復興と改革をもたらすために旧約・新約双方の聖書の預言を用いた最初の聖なる使者として、ウィリアム・ミラーを同定するものである。聖書は神的であり、二百二十年後に人間と結びついて、ウライの使信を生み出した。

イエスはアルファでありオメガであり、また神のことばであられる。それゆえ、1611年における欽定訳聖書の刊行は、イエスを1611年に、そしてまた1831年にも位置づける。終わりの時に、キリストはユダ族の獅子として現れる。そして、メッセージが定式化されるとき、彼はアルファでありオメガであり、またことばである。ミラーと「初め」との関係は、初めと終わりの双方がメッセージの出版を強調しているというかたちで認識される。1776年から1996年に至るまでも、相違はあるが、同様の特質を帯びている。

ヒデケルのメッセージとは、ダニエル書十一章四十一節に示されているとおり、アメリカ合衆国における日曜法令のメッセージである。1776年、すなわち『独立宣言』の公刊は、意図によらず摂理によって『終わりの時』と題された刊行物によって終結する二百二十年の期間の起点をなしている。同じ年、すなわち1996年に、Future for Americaという名称の宣教法人が私たちに与えられた。麗しの地、すなわちアメリカ合衆国のメッセージは、その預言の始まりと終わりとを直接に結ぶかたちで定式化された。ミラライトの歴史におけるすべての主要な道標は、十人のおとめのたとえの範型に従って繰り返されてきた。両方の二百二十年の期間は、いずれも刊行物によって画される始まりと終わりを備え

ている。

ミラーのメッセージと方法論は、第二のわざわいにおけるイスラームの成就によって確認され、力を与えられた。主がそのメッセージに力を与えるために用いられたのは、ミラーの「一日一年の原則」と、9/11において、黙示録第十八章の天使の降臨が、黙示録第十章において表されている1840年8月11日になされた降臨を繰り返したときに、そのメッセージと方法論に力を与えた原則であった。その二人の天使は、天使としてのキリストの預言的顕現を表している。1840年8月11日の運動にとって「一日一年の原則」が基礎であったのと同様に、9/11の運動にとって基礎をなす原則は、ミラー派の歴史が十四万四千人の歴史において繰り返されるという原則である。

イスラームに関する第三の災いの預言の成就が、オメガの歴史および第三天使の歴史の中に到来し、それが、アルファの第一および第二の天使の歴史の中に到来したイスラームに関する第一および第二の災いの預言の成就と一致したとき、ミラー派の歴史が十四万四千人の歴史において繰り返されるという原則は、黙示録九章の第一および第二の災いに関連してミラーの「一日一年の原則」が確認されたのと同程度に、堅固に確認された。黙示録九章十五節に示されている三百九十一年と十五日の時の預言を知っている人々の中には、先に述べた私の要点を見落とす者もいるかもしれない。説明しよう。

第一および第二の災いは第一および第二の天使の歴史と一致し、第三の災いの歴史は第三の天使の歴史と一致する。ここでの要点は、第二の災いの歴史において示されている三百九十一年と十五日の起点が、第一の災いの歴史の中に見いだされるということである。黙示録九章の第一の災いの歴史には百五十年の預言があり、その預言期間が終わるその日に、三百九十一年と十五日の預言が始まる。この二つの預言は第一と第二の災いを直接結び付けている。ゆえに、一日一年の原則に基づいてイスラームに関する預言が示されたとき、その預言はイスラームの第一と第二の災いに関する預言であり、それは第一と第二の天使の歴史においてミラーの方法論とメッセージを確認したメッセージであった。

その歴史が1844年10月22日に終結したとき、第七のラッパが鳴り始めた。そして第七のラッパは、第三の災いであると同時に、敬虔の奥義、すなわち「あなたがたのうちにおられるキリスト、栄光の望み」でもある。そのラッパは外的な警告のメッセージであり、同時に内的な警告のメッセージでもある。このゆえに、2520年の預言は、ヨベルを含む地の第七年の安息と結びつけられている。1844年10月22日、2520年と2300年の預言の成就として、第七のラッパが鳴り始めた。

しかし、第七の御使いの声が響き、彼がラッパを吹き鳴らし始めるとき、神の奥義は成就する。神がそのしもべである預言者たちに告げられたとおりである。黙示録 10:7

1844年10月22日は贖罪日であり、ヨベルの角笛はその贖罪日に吹き鳴らされる定めであった。その時以来、私たちは第三の天使の時代に、また第三の災い、すなわち第七のラッパの時代にも生きている。1840年8月11日には、9/11において黙示録18章の御使いがそうしたのと同様に、黙示録10章の力ある御使いが、その栄光によって地を照らすために降りて来た。

2012年から2013年1月にかけて、「ハバククの二つの表」と題するシリーズが制作され、1842年5月に刊行された1843年パイオニア・チャートに歩調を合わせた。こうして、第一と第二の天使のアルファ運動であれ、第三の天使の運動であれ、その運動の基礎が据えられ、ハバククの二つの表はその歴史とメッセージに織り込まれた。2020年7月18日の失敗に終わった予測は1844年4月19日と並行し、たとえ話における遅延の時間が進行していた。

1260日の荒野は、2023年12月31日に封印が解かれた時に終結した。ホワイト姉妹の言うところの「神聖冒涇」から、キリストはご自身の宮を二度清められたことを想起するのはよい。主はご自身の公生涯の初めと終わりにそれを行い、二度の清めをアルファとオメガに当たる清めとされた。

ホワイト姉妹は、第一の神殿の清めを9/11および第一の声と明確に結びつけており、この第一の声を黙示録十八章の最初の三節であると同定している。さらに彼女は、四節の「ほかの声」を、第二の神殿の清め、また日曜法として同定する。1844年4月19日はミラー派にとって第一の神殿の清めであり、1844年10月22日は第二の神殿の清めであった。1798年から1844年に至る四十六年の間にミラー派の神殿が築かれ、そのミラー派神殿建設のフラクタルは、いずれも神殿の清めを表す二度の失望の歴史の中に見いだされる。その歴史の主題は神殿である。

2020年7月18日から2023年12月31日に至るまで、乙女たちは遅れの時に眠っていた。彼女たちが目覚めると、礎を据え、神殿を築き上げるという自らの責務を自覚する。その時以来、ユダ族の獅子としてのキリストが、預言の光の封印を解いてこられた。そして、封印が解かれた預言の光は、常に、終局においては品性が決して形成されず、ただ顕現するのみであるリトマス試験へと至る、三段階の試験過程を生み出す。そのリトマス試験において、忠実な乙女たちは、これまで神の民の間で記録されたあらゆる神の力の顕現をも凌駕する、聖霊の注ぎ出しを受けるであろう。かつて目撃されたことのない光の増し加わりがあるであろう。以上を踏まえ、私は、ミラー派の歴史と十四万四千人の歴史との並行関係を裏づける、もう一つの歴史的ラインを提示する。

しかしあなたは、ダニエルよ、終わりの時まで、これらの言葉を秘し、書を封じよ。多くの者が行き巡り、知識は増し加わる。そして彼は言った、「行け、ダニエルよ。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからだ。」多くの者が清められ、白くされ、試される。しかし悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者はいない。だが、知恵ある者は悟る。ダニエル書 12章4節、9節、10節。

これらの内容は次回の記事で続けます。

特異性

イーロン・マスクは2026年2月21日、「我々は現在『シンギュラリティ』のただ中にある」と主張した。

技術的特異点

技術的特異点（しばしば単に「特異点」と呼ばれる）とは、技術的進歩が主として人工知能によって駆動され、極度に迅速かつ強力となり、その加速が人間の制御と理解を超えて、人類文明に予測不能にして深甚な変容をもたらすに至る、将来の仮説上の時点を目指す。中核的な理念は「知能爆発」である。最も聡明な人間をも上回るAIシステム（しばしば人工超知能（Artificial Superintelligence、ASI）と呼ばれる）をひとたび創出すれば、そのシステムは自己を再設計し改良することが、これまでのいかなる人間のチームにも到底及ばぬ速度で可能となる。こうして再帰的自己改良のループが生じ、能力は極めて短い時間枠（数日→数時間→数分）のうちに繰り返し倍加し、以後の展開は爆発的となって、「特異点以前の人間」には意味のあるかたちで予測したり制御したりすることが不可能となる。「特異点」という語は物理学および数学からの借用であり、そこでは「ブラックホール」において、特異点とは重力が無限大となり、現在の物理法則が破綻する点を指す。事象の地平線の彼方で何が起こるかを、われわれは観測することも予測することもできない。

同様に、技術的特異点は歴史における「事象の地平線」と見なされる。われわれはその時点までは趨勢を予測しうるが、その先では、拡張されていない人間の知性には未来が不透明となる。

簡史と主要思想家

1950年代-数学者ジョン・フォン・ノイマン（加速する技術的変化について言及した）および数学者・暗号学者I. J. グッド（1965年、ひとたび機械がより優れた機械を設計するようになれば「知能爆発」が生じると述べた）の業績において、その萌芽が見出される。

1993年-計算機科学者にしてSF作家のヴァーナー・ヴィンジは、論考『The Coming Technological Singularity』において、技術的特異点の現代的な概念を広く知らしめた。彼は、2005年から2030年のあいだのいつかに、我々が人間を超える知性を創出するだろうと予測し、その後には「人間の時代」は終焉を迎えるだろう（無補助の人間がもはや支配的な知性ではなくなる、という意味で）。

2005年-発明家・未来学者レイ・カーツワイルは、著書『The Singularity Is Near』によって、この概念に対する広く一般の注目を喚起した。彼は、計算能力の指数関数的成長（彼の「Law of Accelerating Returns」に従うもの）、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、そして脳-コンピュータ・インターフェースによって駆動される特異点が2045年頃に到来すると論じる。彼はこのタイムラインを一貫して維持しており、近年もAGIは2029年、特異点はおよそ2045年であると再確認している。

時系列的予測（2026年初頭現在）

大規模言語モデル、推論システム、スケールリング則における極めて速い進展により、ここ数年で予測の時間軸は顕著に圧縮された。最も積極的／短期的な見解（2026～2027年）：著名なAI指導者の一部（例：AnthropicのDario Amodei、イーロン・マスク）は、超知能、またはシンギュラリティの引き金と機能的に等価な何かが、早ければ2026年、ないし1～3年以内に到来し得ると公に表明している。

完全な超知能／シンギュラリティの到来時期について、専門家調査の中央値は依然として2040～2050年頃に収斂している。

可能な帰結の二つの陣営

ユートピア的／楽観的 → 抜本的な豊富化、疾病と貧困の根絶、マインド・アップロードまたはナノ医療による事実上の不死、人類のAIとの融合（トランスヒューマニズム）、従来は解決不能とされてきた科学的問題を数分で解決すること。

ディストピア的／悲観的 → 人間の主体性・制御の喪失、ミスアラインメント（AIが人間の価値に対して直交的または敵対的な目標を追求すること）、経済的・社会的崩壊、さらには人類存続に関わる実存的リスク。

技術的特異点は、単なる「きわめて高度なAI」ではなく、技術の進化が生物学的・人間的な速度の制約を脱し、自律的な暴走過程へと移行する瞬間を指す。それが2026年、2030年、2045年に起こるのか、あるいは決して起こらないのかにかかわらず、現時点においてなお、人類史上最も重大な未解決の問いの一つであり続けている。

終わりの時 - 1989年

ネットワーク化された世界の始まり

孤立型コンピューティングから接続型コンピューティングへの移行。ティム・バーナーズ＝リーがCERNにおいてワールド・ワイド・ウェブを提唱した（1989年）。商業的なニューラルネットワーク研究が拡大（軍事・学術用途）、インテル80486が出荷され、パーソナル・コンピューティングの性能が飛躍的に向上し、ARPANETはのちに現代のインターネットとなるものへと移行した。それ以前、コンピューティングは強力ではあったが、概して孤立した閉鎖系にとどまっていた。

1989年以降、コンピューティングはネットワーク指向へと転じた。1989年当時のニューラルネットワークは初期段階にあり、ハードウェアに制約され、多くは規則付加型のパターン・システムであったが、軍および研究所では、照準、誘導、および信号分類のための学習システムの試験がすでに行われていた。

これは、その後続くすべてのものの基礎層となった。

メッセージの正式化 - 1996年

インターネットにおける商業の爆発的拡大

ウェブは一般に開放され、商業化し、グローバルな性格を獲得する。ネットスケープを中心にブラウザ戦争が繰り広げられ、アマゾンとイーベイがオンライン商取引が機能することを証明する。グーグルが（1996年、スタンフォード大学で BackRub

として）創業され、Windows 95 の普及が消費者向けコンピューティングを加速させる。インターネットが学術的なものから経済的なものへと転じたのは1996年である。1989年からのインフラが、いまや消費者スケールに到達する。ドットコム時代の核心はウェブサイトそのものではなく、ビジネスのデジタル化にある。この時期は、商取引、広告、情報探索、そしてコミュニケーションの様式を変容させた。

力を授けられたメッセージ - 2001年9月11日

モバイル+プラットフォームの時代が始まる

メディアのデジタル化+初期的なクラウド基盤+常時接続型ブロードバンド. アップルが iPod を発売（携帯型デジタル・エコシステムの端緒）、ウィキペディアが開設（集合知プラットフォーム・モデル）、ブロードバンドの普及が急増し、アマゾンはそのちにAWSとなるものの静かな構築に着手する. 9/11以後、監視技術は飛躍的に加速し、データ分析基盤は急速に拡大する. ここに、クラウド・コンピューティング、プラットフォーム・エコシステム、デジタル・コンテンツの支配、常時接続型インフラの端緒が開かれ、ソーシャルメディアとスマートフォンのための基盤が敷かれる.

土台が据えられた - ハバククの板 - 2012年、2013年

深層学習におけるブレークスルー

現代人工知能の誕生

ニューラルネットワークが実験段階を脱し、実用上きわめて強力なものとなった決定的瞬間——すなわち、2001年の「プラットフォーム/クラウド」時代と2023年の「生成AI」の爆発的展開との間をつなぐ、まさにその橋渡しがここにある. 2012年9月: AlexNet（深層畳み込みニューラルネットワーク）がImageNetコンペティションにおいて、従前のすべてのアルゴリズムを打ち砕く圧倒的な差で優勝した. この一事は、現代的な深層学習が誕生した瞬間として、AI研究において普遍的に認められている. 2012年: Geoffrey Hintonのチームは、GPU上で学習させた深層ニューラルネットが階層的特徴を自動的に学習し得ることを立証した. 2013年: GoogleがHintonの会社（DNNresearch）を買収. 産業界は突如として数十億ドル規模の資金を深層学習に投じた. NVIDIAによるGPUの進展（CUDA）はAIの標準的ハードウェアとなった. これと並行してビッグデータ向けツール（2013年にSpark 1.0がリリース）が成熟し、深層学習に必要とされる巨大データセットの活用を可能にした.

封印の開封 - 2023

生成型人工知能が敷居を越える

AIは利用可能となり、実用に供され、経済に破壊的変化をもたらすようになる. 単なる「より優れたニューラルネット」ではない. これは、AIがコードを書き、画像を生成し、ホワイトカラー業務を自動化し、推論課題を大規模に処理し、そして初めて、AIが専門特化型であることをやめ、汎用的な認知的ツールとなる瞬間である.

2026年——シンギュラリティか？

- ・ 1989年を、『終わりの時』そのものの封印が解かれる時とする（ネットワーク化された接続性の開始、世界的な知識流通の基盤; アドベンチズムにおける最終恩恵期間の道標としてのソビエト連邦崩壊に結び付けられる）.

- ・ メッセージの定式化としての1996年（商用ウェブが情報経済の規模を拡大し、商取引および探索をデジタル化する）。
- ・ 2001年におけるメッセージの賦能（プラットフォーム、クラウド、常時接続が、集めつつモバイルな知識のためのデジタル・エコシステムを築く）。
- ・ 2012～2013年は、真の知性の基盤が築かれた時期である（ディープラーニングのブレイクスルーにより、機械による理解が実用的かつスケラブルなものとなった）
- ・
- ・ 封印が解かれることの頂点としての2023年（生成AIが汎用的な認知能力の域に達し、知の創造と推論を広く利用可能なものとし、かつ破壊的なものとする）

その進展は洗練されている。各段階は先行段階の上に累積的に構築され、接続性→商業化→エコシステム→知能→認知へと移行する。

2012/2013年は決定的な転換点であり、ニューラルネットワークが階層的かつ自動的な学習を成し得ることが実証された瞬間であった（AlexNet/ImageNetでの勝利、Hintonの業績の妥当性の裏付け、GPUによるスケラリングの実現）。このことにより、2023年の生成モデルの爆発的展開は不可避となった。2012年のアーキテクチャ上の転換がなければ、トランスフォーマー・モデル（2017年）と大規模スケラリングをもってしても、ChatGPTレベルの汎用性は生み出されなかったであろう。